

■五姓田義松 画家。維新後の洋画家のトップランナーとなって、渡仏するも、生活力を欠き、帰国後は、失意の晩年。

ごせだよしまつ

安政大地震・1855＝ 洋画家である五姓田芳柳の次男として、江戸に生まれる。

松下村塾・・・1856＝ 1歳： 妹勇(のちの渡辺幽香)生まれる。

桜田門外変・1860＝ 5歳：

遣欧使節・・・1861＝ 6歳： この年、イギリスの絵入り週刊新聞のイラスト作家ワグマンが来日。横浜に拠点を構え、

生麦事件・・・1862＝ 7歳： ワグマンは、この年から没するまで、漫画雑誌{ジャパン・パンチ}を発刊し続け、大きな影響を及ぼす。この頃、柔術を奥津七事齋に、剣術を伊場軍兵衛に習う。また読書を嫌い、絵を描くことを好む。

禁門の変・・・1864＝ 9歳：

薩摩藩士密航1865＝10歳： 横浜のチャールズ・ワグマンに入門。浅草から遠く、たまに訪問する形で学び始め、

薩長同盟・・・1866＝11歳： 父親に近い年齢の高橋由一がワグマンに入門。次妹登女(のちに2世芳柳の妻となる)生まれる。

大政奉還・・・1867＝12歳： 維新の動乱のさなか、父に連れられ、京坂に向けて旅に出る。

明治維新・・・1868＝13歳： 「自画像」(妹を描いたとも見られる)。途中で祖父森田弥左右衛門と出会い、最後の別れとなる。

戊辰戦争終・・・1869＝14歳： この頃、ワグマンからより密接に学ぶため、横浜に移住、母勢子と同居。勉学はほとんどしないで育ってきたが、すぐに優れたデッサン力を発揮、ワグマンから我が子のように可愛がられ、研究も熱心で、

廃藩置県・・・1871＝16歳： 水彩や油絵の具の自製まで成功、その販売と合わせて、実作品の販売を開始、

学問のすすめ1872＝17歳： この年、入門した山本芳翠をワグマンに紹介。ワグマン「五姓田工房内」「五姓田一家之図」「台所」など身近な状況も絵にし、「横浜西太田ノ村落」には、水彩で風景を描く才能が発揮されている。父から分籍して独立するも、関係は良好で、

明治6年政変 1873＝18歳： 東京浅草に戻り、

佐賀の乱・・・1874＝19歳： 宮内省の命による、父の「明治天皇の肖像画」を、一門で助筆、また、一門協力して浅草寺境内に洋画の展覧所を設ける。東京向島の白髪神社境内に移住、門弟をとり指導し始める。

初の民間工場1875＝20歳： 父の意向で、川上冬崖の推薦により陸軍士官学校に図画教師となり、世間的には大出世ながら、{横浜毎日新聞}に、ワグマンが、父に対して激怒した記事が掲載される事態になるが、終生、師として慕う。ずっと生活の面倒を見てもらい続けた母の死の前日に「老母図」を描く。その後も、家事は家政婦に任せきりで、生活力が身につかないまま、

三つの反乱・・・1876＝21歳： 工部美術学校に入学しアントニオ・フォンタネージに師事するが、すでに画家となった身には合わず、

西南戦争・・・1877＝22歳： 退学。*第1回国勲業博覧会の洋画部門に「阿部川富士図」「自画像」を出品し、(高橋由一を超えて)最高賞たる鳳紋賞を受賞、日本人洋画家のトップランナーとなり、

大久保暗殺・・・1878＝23歳： この年、山本芳翠が訪仏。*宮内省の命により「孝明天皇肖像」を制作。その成果が評判となり、明治天皇の御付画家として北陸・東海地方の行幸に供奉して「北陸東海御巡幸図」など描く。

琉球処分・・・1879＝24歳： 「昭憲皇太后肖像」を制作するが、自らの志とは合わず、絵によって多額の収入を得たこともあって、

・・・1880＝25歳： 父「五姓田芳柳像」を別れの挨拶として、渡仏、

明治14年政変1881＝26歳： 山本芳翠の案内でパリ見物後、レオン・ボナに師事、フランス人画家の卵のなかで、すぐに腕前は認められ、日本人初のサロン・ド・パリ入選作家となるが、金遣いも荒かったことから、早くも大金を使い果たして、友人から借金をする一方、アメリカ人に模写作品を売って凌ぎ、

新体詩抄・・・1882＝27歳： 再び、サロンに入選する。この間、兄死去の報に衝撃を受け、

岩倉具視没・・・1883＝28歳： 「操芝居」。*大作「人形の着物」で、3度目のサロンに入選を果たすと、極貧生活から逃れるように、

国民之友始・・・1887＝32歳： 父が引退し、養子にしていた芳雄を2世芳柳とする。イギリス国内を回ってから、アメリカのパトロンのもとで骨を休め、

帝国憲法発布1889＝34歳： 創作意欲も枯渇して、帰国。日本画復興で洋画排斥の風潮高まるなか、打破すべく結成された{明治美術会}に参加し、第1回展に出品するも、かつての状況とは比べようもなく落胆、

帝国議会始・・・1890＝35歳： 父とともに渡米するが、仕事は無く、父をすぐに帰国させ、自らもまもなく、失意のうちに帰国。

足尾鉾毒始・・・1891＝36歳： ワグマンが横浜で死去。宮内省役人の助け舟があり、御料乗良馬金華山の制作を命じられる。

大本教・・・1892＝37歳： 広野きくと結婚。父も死去して、五姓田工房は解体。酒に浸って、体調を崩すことも多くなり、

郡司千島探検1893＝38歳： 息子義彦が生まれる。

日清戦争始・・・1894＝39歳： 日清戦争に、画家として従軍。

八幡製鉄始・・・1897＝42歳： 2世五姓田芳柳が担当したパノラマ館の助言役をつとめる。

Bushidou・・・1899＝44歳： パリ時代に縁ができていた原敬も助け舟、{大阪毎日新聞}の依頼で故仏蘭西大統領の版下を描いたり、

ビア/国産化・・・1900＝45歳：

田中正造直訴1901＝46歳： 「大隈重信像」、

教科書疑獄・・・1902＝47歳： 生活のため、著名人相手に、作品の予約頒布を計画するが頓挫。「原敬肖像」を描き、

日比谷公園・・・1903＝48歳： 「魚介図」。「白馬会」を観覧し、黒田清輝と久しぶりに邂逅。

日露戦争終・・・1905＝50歳： 生活のため、この頃より学生をとり、「画学」を教授し始めるが、

韓国反日暴動1907＝52歳： 第1回文部省美術展覧会に「水師營の会見」を出品すも、反響無く、

アヲキ創刊・・・1908＝53歳： 画学の教授を止め、以後、生活費のため、黒田清輝の好意を得て、数度にわたり、東京美術学校に、作品を売却しながら、

伊藤博文暗殺1909＝54歳：

明治天皇没・・・1912＝57歳：

21ヶ条要求・・・1915＝60歳： 横浜の自宅で没した。